

令和6年度
「とくしま消費者教育」
NEXTステップアップ事業

実践報告集

令和7年3月
徳島県教育委員会

「とくしま消費者教育」NEXTステップアップ事業について

徳島県では、令和4年3月に改定した「徳島県消費者基本計画」に基づき、被害に遭わない、合理的な意思決定ができる「自立した消費者」、社会全体のよりよい生活を創造するために「積極的に行動できる消費者」の育成を目指し、消費者教育を推進しているところです。学校教育においては、地域や関係機関等と連携し、児童生徒の発達段階に応じた体系的な消費者教育の推進が求められています。

徳島県教育委員会は、本事業の中で、県内公立幼・小・中・高等学校の中から合わせて5校を研究実践校として指定し、体験的な学習活動や社会貢献活動、学校・地域間連携、地元の食材を生かした商品開発、食品の安全に関する啓発活動、金融経済教育を通して、子供たちの消費者力を育成することに取り組みました。

また、県内小・中・高校生からの消費者被害の未然防止や消費生活の向上を呼びかける啓発ポスターの募集や、学校における消費者教育を支援するための「講演・出前授業」を実施しました。

本事業は消費者庁「令和6年度地方消費者行政強化交付金」を活用しています。

研究実践校

上板町立高志幼稚園

松茂町立喜来幼稚園

松茂町立松茂中学校

徳島県立阿波西高等学校

徳島県立池田高等学校定時制

1 実践の目標

地域の特性を生かした体験活動を通して、「生産と消費の関係性」や「お金と物のやりとり」を学ぶ。また、幼児の成長段階に合わせた買い物体験（①チケットと品物の交換、②お金を使った買い物）をし、お金や物を大切にしようとする気持ちを育む。

2 実践の内容

(1) 栽培活動を通して、生産と消費の関係を学ぶ

- 園内に野菜苗を商品として並べて野菜苗販売の模擬店を開き、5歳児が育てたい野菜苗をチケットと交換して買った。毎朝、水やり等の世話をかかさずし、7月には生長した野菜を収穫した。収穫した野菜は、5歳児が計画・準備した「おいしいやさいのやおやさん」にて、保護者や年少児に販売した。幼児は苗の購入－栽培－収穫－販売の一連の流れを生産者として経験し、学ぶ機会となった。
- 農家の方の提案でブロッコリーの苗100株をいただき、園内の畑等でブロッコリー栽培を行った。大切に世話をしているにもかかわらず、害虫に食べられたり、異常気象により野菜が病気になったりすることを体験し、農家の仕事の大変さを知った。また、大きく育ったブロッコリーは、家庭に持ち帰ったり小学5年生にプレゼントをしたりして、喜ばれたことで生産者としての気持ちを感じることもできた。



(2) 財布作り

- 買い物体験に備え、幼児はフェルトを好きな形に切り模様をつけたりストーンをつけたりして、世界に一つの財布を作った。買い物への楽しみやお金を大切にする気持ちにつながっていった。



(3) 買い物体験

- 夏野菜販売で稼いだお金を年長児が数え、収益金をどのように使うか話し合った。「苺の苗を購入する」と「栽培しているサツマイモを使ったカップケーキ作り」に決まった。そこで、世界に一つの財布とバッグを持って、カップケーキ作りに必要な材料をスーパーマーケットに買い物に行った。買い物体験では、年少児と年長児がペアとなり、協力して材料を選んだりお金を支払ったりして、買い物の仕方を学び技能を高めた。

3 実践の成果

農業が盛んな地域の特性を生かした野菜栽培・収穫・販売活動では、生産－消費の流れを学びながら労働の楽しさを味わった。砂場で畑ごっこをしたり道路を通っている大きなトラクターやコンバインに興味をもったり、自ら草抜きをしたりし農業への関心が高まっている。また、幼児を取り巻く環境は日々、変化し、キャッシュレス社会になっている今、「チケット交換での買い物」と「お金のやりとりでの販売や買い物」を体験したことで、キャッシュレスでは分かりにくいお金や物の大切さにも気付くことができた。このような活動を通して、幼児の主体性や意欲、人と関わる力が身についたとともに、幼児の遊びや小学校・家庭・地域へとつながるような取組となったと感じている。

1 実践の目標

- (1) 自分と物、他者や身近な環境とのつながりを知り、物を大切にすることに気付く。その中で、物の使い方を考えたり、ルールを守ったりする。
- (2) 生産過程や物の行く末を知り、その過程で関わる人々に感謝の思いを持つ。

2 実践の内容

(1) 地域の農家やお店との交流を通して

- ・本町の特産物である、梨畑の見学や農作業の疑似体験を行う。その後実際に買い物体験をし、生産から販売までの過程を学んだ。
- ・季節ごとにサツマイモや夏野菜、大根など、栽培から収穫を行い、幼稚園や家庭で食べることを体験したことで、食べ物への興味や関心を持つきっかけの一つとなった。
- ・JA 見学では、町の特産物であるサツマイモが収穫された後店頭まで出荷の流れや出荷場の作業の様子を知ることができた。



(2) ゴミはどうなっていくのだろうか？

- ・町内の環境センターを見学し、ゴミがどのような道をたどるのかや、ゴミを分別することがリサイクルへの第一歩であるということを知る。園に帰り、子どもたちは無駄について話し合ったり、ゴミの種類を考え、分別をするためにはどのようにすればよいかを話し合ったりした。



(3) エネルギーってなんだろう？

- ・川口ダム自然エネルギーミュージアムを見学し、実験を通して様々なエネルギーが生まれる仕組みを学んだ。

3 実践の成果

幼児は野菜などを育てる中で親しみを感じたり、食べ物への関心が高まったりした。また農家など地域の人々との交流によって生産者への感謝の気持ちが芽生え、苦手な物も食べようとするようになり、残食も減ってきている。

日々の生活がエネルギーに支えられているということを実感し、幼児自らエネルギーを大切にしようとする姿が増えた。また、リサイクルできることを知り、物を捨てるときのマナーにも気を付けようという意識も芽生えてきている。今回の活動を通して、幼児一人一人に身近な物を大切に、無駄をなくして再利用する方法を考える気持ちが育ってきている。これからも幼稚園、家庭、地域とつながりながら、身近な環境のことを考え、物を大切にしたり人や物に感謝したりする気持ちを育てていきたい。

学校名

松茂町立松茂中学校

1 実践の目標

- ・生徒にとって消費者教育が未来に生きて働く力になるようにする。
- ・商品化プロジェクトで生み出した商品を開発することで、消費者の立場に立った商品とはどのようなものかを考えさせる。

2 実践の内容

マツシゲートラボで、本校のキャラクターでもある「まっちゅん」の商品化を行う。主にボランティアを募集し、ラボのメンバーや美術部・ボランティア委員会を中心として商品開発を行い、マルシェで販売をする。商品化プロジェクトでは、アンケートやリサーチを行い、消費者にとっての魅力ある商品を製作する。干し芋プロジェクトでは栽培からはじめ、地域の農家の方の指導を仰ぎ、食品としての販売方法も学ぶことができた。その活動は、コミュニティ・スクールの一貫として行えた。



(商品化プロジェクトで制作したまっちゅんパズル)



(芋ほりボランティア活動)



(干し芋加工)

3 実践の成果

商品化プロジェクトでの売り上げで、松ぼっくりのクリスマスツリーやキーホルダーを製作したり、地域の幼稚園にサンタクロースになりプレゼントに行ったりした。また福祉施設（和光園）に車椅子を寄贈し、社会貢献にも努めた。生徒は消費者教育を学ぶことにより、商品化だけでなく、社会や地域に貢献する喜びを知ることになった。



(幼稚園のクリスマス慰問)



(和光園車椅子贈呈式)

1 実践の目標

阿波市産野菜「阿波ベジ」の魅力を発信する啓発活動等を通して、持続可能な社会の実現に向け、主体的に判断し、行動できる消費者力の育成を図る。

2 実践の内容

(1) 地産地消料理講習会（3回）

地域で活躍する専門家や阿波市生活改善推進協議会から講師をお招きし、地産地消の料理講習会を実施した。規格外野菜を用いたお菓子作りや地域食材を無駄なく使い、フードロス削減を意識した減塩食調理に挑戦した。



(2) 地域食材の普及・啓発

○地域食材で商品開発



地元菓子店と連携し、阿波市産の規格外野菜や米粉を用いた「阿波ベジにんじん米粉ケーキ」を開発した。地域のイベントや文化祭で販売し、地産地消への理解を広げた。



○食育啓発活動

地域の子ども食堂や校内の食育展、文化祭で地元野菜を活用したレシピの配布やパネル展示を行い、阿波市産の野菜の魅力について広報活動を実施した。また、本校ホームページにレシピを掲載し、地域への情報発信を行った。



(3) エシカルツアーの実施

徳島の伝統工芸である藍染めや木にまつわる地域の伝統文化について学ぶエシカルツアーを実施し、環境や社会に配慮した消費行動について考えることができた。



3 実践の成果

地元野菜の商品開発や広報活動、エシカルツアーの実施等により、自分たちの住む地域の産物や伝統工芸への関心を高め、自分たちにできることを考え実践することができた。これからも、地域との交流の機会を増やし、食育啓発活動に取り組むことにより、消費者が主役の消費者市民社会の実現に向け行動していきたい。



1 実践の目標

消費者トラブルに遭わないよう、消費生活の安全・安定の確保と向上を図るための知識や技能を身に付け、消費者としての権利や役割、自立について理解し、健全な消費行動と意思決定ができる力や、持続可能な社会の発展に参画できる生徒の育成を目標に取り組む。また、自己の人生計画・生活設計や社会システムについて深く考え、長期的な金銭感覚やリスクマネジメント力等の金融リテラシーを身に付けるとともに、自分の生き方や価値観を磨き、より豊かな生活やよりよい社会形成に向けて、生徒が主体的に考えて行動し、自己実現や社会参画ができる知識・態度を身に付けることも目標にする。各教科をはじめ複数の教科間の連携による取組や、体験的な学習活動、環境教育、食育、国際理解教育、金融教育、キャリア教育等と連携した実践を目指す。

2 実践の内容

- 地域と連携し、芸術家・専門家を講師として消費者教育に関する美術作品制作を実施し、自然環境問題に配慮したり、消費者問題やSDGs・GXを啓発したりする作品の制作。
- 金融経済教育推進機構等と連携した消費者問題や金融・経済、SDGs・GXに関する学習の実施。
- 消費者問題やSDGs等について探究活動を進め、学習の成果を掲示物等にまとめた展示。
- 消費者問題やSDGs等に関するエコバッグ等を作成して地域社会や連携校等に配布。
- 家庭の廃食用油を収集して地域の回収施設へ提供し、地域のパッカー車や給食配送車の燃料に再利用する廃食用油リサイクル支援活動。
- 校外学習で証券会社を訪問した金融・経済や消費者問題の現状・課題についての学習活動。
- 家庭科・公民科等の各教科・科目が連携した消費者教育に関わる総合的・横断的な学習活動。

消費者問題について学校で学習を始めて関心が高まりましたか。

とても思う	8%
少し思う	23%
あまり思わない	46%
思わない	23%

多様な消費行動について適切に実践できる自信がありますか。

とても思う	8%
少し思う	38%
あまり思わない	31%
思わない	23%

3 実践の成果

アンケートで、学校で消費者教育に関する学習を始めてから関心が高まったと肯定的に答える生徒の割合が 69 %であり、学習展の地域や保護者等からの評価も高く、称賛や激励の感想が多く見られた。学習を通して消費者トラブルへの対応やお金の正しい使い方等の消費行動を適切に実践できる自信があると肯定的に答えた生徒の割合は 46 %と目標達成に一定の示唆を与えた。今後も地域や家庭と連携を図りながら、消費者の権利や役割、自立について理解し、健全な消費行動と意思決定ができる力や、消費生活の安全・安定の確保と向上を図るための知識や技能を身に付け、持続可能な社会の発展に参画する意欲や態度を育む。また、お金や金融の様々な働きを理解し、自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながらより豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、自主的・主体的に行動できる知識や態度を生徒に育成する。

学校における消費者教育を支援するための「講演・出前授業」

徳島県消費者政策課と連携して、『とくしま「消費者教育人材バンク」』に登録されている徳島弁護士会や徳島県消費者情報センター等を講師として学校に派遣し、学級単位や学校全体・学年単位、生徒指導のための集会等において、学校における消費者教育を支援するための「講演・出前授業」を実施しました。

本事業は、子供たちが消費生活に関する正しい知識を習得し、適切な行動に結び付けることができる力の育成や令和4年4月からの「成年年齢引下げ」に対応し、合理的な意思決定ができる自立した消費者の育成、また児童生徒が消費生活に関する正しい知識を習得し、適切な行動に結び付けることができることを目的として、実施しています。

今年度は、県内公立小・中・高等学校93校で実施しました。（令和6年度も全ての公立高等学校・中等教育学校で実施）

< 内容 >

- 「ネットワーク社会に生きる私たち」（小学生・中学生・高校生向け）
- 「自立した消費者になろう」（小学生・中学生向け）
- 「若者に多い消費者トラブル事例から学ぶ」（中学生・高校生向け）
- 「成年年齢引下げに伴う消費者の自立と責任について」（中学生・高校生向け）
- 「金融の役割について知ろう」（中学生・高校生向け）
- その他「持続可能な消費の実践」や「家計管理とライフプランニング」

など



発達段階に応じた「講演・出前授業」



各学校のニーズに応じた内容で実施

消費生活啓発ポスター

自らの消費生活の安定及び向上に向けて主体的に判断し、行動することができる「自立した消費者」を育成するため、県内公立学校の児童生徒から消費者被害の未然防止や消費生活の向上を呼びかける啓発ポスターを募集し、入賞作品については、県庁ふれあいセンター（すだちくんテラス）や徳島県消費者情報センター等で展示したほか、カレンダーを作成し、配布するなど、啓発に活用しました。



最優秀賞
徳島県立川島高等学校
渡部 小夏 さん



優秀賞
徳島県立城東高等学校
北谷 美空 さん



優秀賞
徳島県立城東高等学校
玉有 慶太 さん



優秀賞
阿波市立阿波中学校
河野 恋 さん



入賞
阿波市立伊沢小学校
太田 二鼓 さん



入賞
吉野川市立鴨島小学校
岸田 柚綺 さん



入賞
徳島県立城東高等学校
八木 咲乃 さん



入選
徳島県立川島高等学校
一宮 彩華 さん



入賞
徳島県立城東高等学校
清水 来夏 さん



入賞
徳島県立城東高等学校
河野 愛子 さん